

トイレに行ってみませんか・・・？

本来あるべき排泄スタイルへ

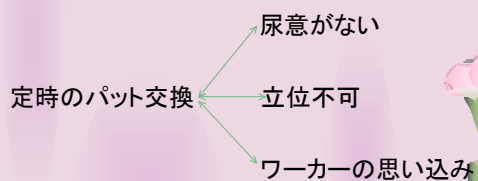


特別養護老人ホーム 愛華の郷

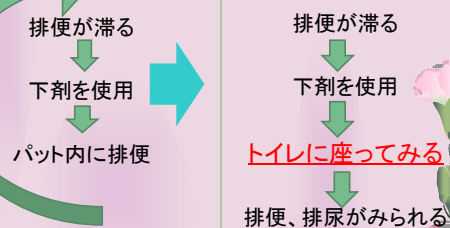
経営理念

1. 利用者の喜び
2. 地域の皆さまの喜び
3. 職員の喜び

取り組み前の排泄状況



〈取り組むきっかけ〉



取り組んだ課題

- ◆ 本人の希望時に合わせてトイレに行く
- ◆ 時間を見ながらトイレにお誘いしてみる
- ◆ 本来あるべきスタイルに戻り排泄を行う
- ◆ トイレでの排泄の感覚を思い出して頂く

〈Tさんの場合〉

82歳女性 要介護度5
頸椎損傷、アルツハイマー型認知症

定時ベッド上での排泄交換

日中 → 吸収量710ccのパットを使用

夜間 → 吸収量1300ccのパットを使用

1日3回酸化マグネシウム内服

下剤を月5～8回使用

その後座薬を月6～8回使用

トイレに座り排便・排尿みられる

〈取り組み開始〉

本人の希望時、2人介助にてトイレに座る時間をみながら(9時、13時、16時)にトイレに座る
〈トイレに座ってからの排尿、排便の状況〉
(一か月内)

	9時	13時	16時
排尿	27回	26回	19回
便	2回	9回	4回

〈1カ月後の状況〉

- ◆9時、13時のみパットを吸収量710ccパットから吸収量520ccのパットに変更する
- ◆トイレでの排尿は、腹部マッサージを行うと毎回みられる
- ◆20時の排泄時、パット内に排尿ないため翌月より16時のトイレ誘導時も吸収量710ccのパットから520ccのパットに変更する

〈現在の状況〉

- ◆1日1回イーージーファイバーを飲む
- ◆排泄時、排尿みられる
- ◆下剤を使用せずに排便がみられるようになる
- ◆尿の状態を観察できるようになった
- ◆本人より、「トイレに行きたくなっちゃったよ」、「今日はでないよ」と尿意、便意の音が聞かれるようになった

〈Mさんの場合〉

94歳女性 要介護度4
高血圧、子宮脱、緑内障、糖尿病

- ◆定時ベッド上での排泄交換
- ◆覚醒し活気がある日と傾眠の強い日がある
- ◆常にパット内にはうずらの卵ほどの排便がある

〈取り組み開始〉

- ◆便秘3日目に2人介助にてトイレに行ってみる
- ◆傾眠している時は、ベッド上での排泄交換

〈現在の状況〉

- ◆トイレで排尿、バナナ1本以上の排便あり
- ◆パット内の便の付着がなくなる

常に本人にトイレの言葉かける



「いいよ」「いくよ」と返事あり
立ち上がりの際、自分でも足で踏ん張ってくれる

この取り組みの結果

- ◆利用者の喜ぶ顔や言葉を聞くことができた
- ◆排尿・排便の色や形状の確認をすることができた
- ◆利用者への言葉かけの回数が多くなり、コミュニケーションが多くなった
- ◆「トイレに行かない」と言われた時は尿漏れする事もあるが、個々に合わせた言葉かけが自然にできるようになった
- ◆個々の排尿・排便のタイミングが少しずつ分かってきた
- ◆下剤の使用量が減り、摘便なども少なくなり利用者の負担が減った



〈今後の課題〉

- ◆個々の排泄のタイミングを調べ、個々に合った時間にトイレの言葉かけができるようにしていく
- ◆職員同士の意見交換を活発に行う
- ◆定期的にケアを見直し、今の状態に合っているのかモニタリングを行う
- ◆看護師など他職種の見聞も聞く



ご静聴ありがとうございました

